

# PBL版 グローバルスタディーズ

## ～カンボジアで学ぶSDGs～

### 2018年度 実施報告

家本 繁(数学科)  
山田 篤史(地歴公民科)

#### 1. はじめに

中央大学杉並高等学校では、土曜日の3・4時間目を「土曜講座」として高校の通常カリキュラムとは別にさまざまな選択講座を用意し、生徒一人ひとりが各自の興味・関心に応じて履修できるようになっている。「PBL版グローバルスタディーズ」は、この土曜講座の一つとして開講され、グローバルな社会課題に目を向け、課題解決に自ら関わっていこうとする姿勢や資質を身につけることを目的としたグローバル教育の実践である。1学期に事前学習をおこない、夏休み期間を使って研修地としてのカンボジアを訪問し、2学期に生徒たちが自ら設定したテーマについてのプロジェクトワークを実践していき、各グループで検討した課題解決案をプレゼンテーションするという通年のプログラムである。

PBL(Project Based Learning)とは、「課題解決型学習」のことであり、講座名で「PBL版」とうたっているように、この講座を通じて生徒に身につけてほしい力は、どこに問題があるのか、なぜ問題が生じているのか、どのようにしたら解決へと導けるのかということを、自ら気づき探索する力である。また、今回の研修では、SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) をテーマとし、現在の世界が抱える諸課題について目を向け、自らその課題解決案を考えることを通して、自らもグローバル社会の一員として諸課題の解決に積極的に関わろうとする姿勢を養うこと目標としている。研修地と

してのカンボジアは、かつて植民地時代や内戦を経験し、現在では平和な社会が築かれインフラ整備や経済発展が進みつつあるとはいえ、まだまだ多くの社会課題を抱えている。生徒たちが実際にその現場を見て、現地の人々と交流し、自ら考え感じることで、今後のるべき姿や自分自身の関わり方を模索していくことを期待したい。

このように、本講座は生徒一人ひとりが主体となって活動することを期待した探究的な学習プログラムである。しかし、上記の内容や学習方法を学校のリソースだけでは対応できないため、国際協力機構(JICA)や様々なNGO団体・海外支援団体、中央大学の先生や学生とも連携して、プログラムの企画・運営やグループワークの際の生徒へのアドバイスなどの点でご協力いただいている。

近年、学力向上への対応などにより、学習内容および授業時間が増加し、グローバル教育に取り組む時間の確保が困難になっているが、本講座がグローバル教育を推進するための学校現場での理解を促進し、新しい時代にふさわしい実践事例となることを期待している。

## 2. 事前学習

カンボジアでの現地研修、事後学習を見据え、SDGs、国際協力、カンボジアの歴史、開発協力の実情、ボランティアの活動等、多面的な知識の習得とその活用について事前学習をおこなった。中央大学や外部団体とも連携し、それぞれ専門的な立場からご指導をいただくことで、深い学びにつながった。以下は、事前学習各回の報告である。

### 《事前学習でご協力いただいた皆様》

- ・元JICA青年海外協力隊：竹谷友里様
- ・日本環境教育フォーラム：田儀耕司様
- ・中央大学文学部教授：高橋宏明先生
- ・very50代表：菅谷亮介様

- ・APEXトラベルカンボジア会長：三浦キリブット様
- ・APEXトラベル：今永健太様
- ・中央大学学生団体：C-Habitat様



### 第1回 オリエンテーション

初回は保護者の方にも参加していただき、オリエンテーションを実施しました。年間プログラムの説明、カンボジアへ渡航する上で気を付けておきたいことを確認し、その後は生徒同士で簡単な自己紹介をしました。生徒たちはこれから始まる研修のイメージが固まり、カンボジア渡航への期待が高まったようでした。



### 本研修のねらい

- ・地球の諸問題を知る
- ・世界で活躍する人々から学ぶ
- ・自ら課題を見つける、解決の手段を探る

↓  
グローバル社会で活躍できる人になる

## 第2回 SDGsを理解する

このプログラムの中心テーマである「SDGs」について学びました。最初に5~6人の班に分かれ、SDGsの17個のテーマから一つ選び、なぜそれを選んだのかを含めて自己紹介をしました。かえって自己紹介が難しくなるかと心配しましたが、「貧困」や「ジェンダー」といった話題を時事問題と絡めて話をしている生徒が多くいて頼もしく思いました。次にSDGsの達成状況を日本とカンボジアで比較しました。日本の方が進んでいると感じていた項目が実はカンボジアの方が進んでいたり、日本が達成できていると思っていたことがそうでなかつたり。これらの背景には、国によって達成率を測る指標が違うことが挙げられます。最後に世界各国のSDGs達成状況一覧を先進国、途上国、サブサハラで比較しました。先進国は環境汚染や環境破壊、途上国は経済状況や産業・技術、サブサハラは貧困、社会、産業、エネルギーに課題があることが分かりました。今回、初めてグループワークを行いましたが、どの生徒も自分の考えをもって学年の枠を越えて取り組み、発表していました。



## 第3回 国際協力について考える（JICA地球ひろば訪問）

市ヶ谷にあるJICA地球ひろばを訪問し、JICAの活動や国際協力・途上国支援の必要性などについて学びました。

まずは、JICAの地球案内人（青年海外協力隊経験者の方）によるワークショップを体験しました。前回学んだSDGsの課題とも関連し、カンボジアの抱える

課題、特にグローバルブランドの縫製工場で働く人々の労働条件・労働環境の問題を、先進国の消費者からの視点も含めてグローバルな視点で検討し、グループの間で意見を出し合いました。「何が問題で」、「私たちに何ができるのか」という、まさにPBL（課題解決学習）をここでも体験することができました。後半は地球ひろばの展示スペースを回り、SDGsとも関連した現在の地球上で課題となっている諸問題について体験学習をしました。クイズに答えたり、手や体を動かしてポイントを探る形式の体験展示を通して、生徒たちも楽しく学べたようでした。

また、地球ひろばでは本校卒業生で青年海外協力隊経験者の竹谷さんにもお会いすることができました。今回の中杉生の訪問を楽しみにしてくださっていたそうです。国際協力に携わる"先輩"の存在は、国際協力が遠い世界のことではなく、より身近なこととして感じられたのではないでしょうか。



#### 第4回 持続可能な開発を学ぶ

公益社団法人日本環境教育フォーラムの田儀様にお越しいただき、エコツーリズムを通した持続可能な開発について学びました。エコツーリズムとはどのようなものか、またエコツーリズムのメリット・デメリットについても途上国やブータンの事例を取り上げて詳しく説明していただきました。

先進国ほど開発のために自然環境が破壊されてしまったのに対し、途上国では豊かな自然が守られているものの、経済開発状況が進んでないという問題があります。開発のために途上国の自然を切り開き経済成長を最優先することに

も課題があり、一方で途上国の自然を保護することばかりが優先されて現地の人々の生活が豊かにならないことも問題です。SDGsの諸課題は相互に関連しており、一部を達成すればいいというものではなく、全ての項目が関連しあつて達成されていくことが必要です。

エコツーリズムは、自然資源をいかして観光客を呼び込み、現地の人々がそこに関わることで、自然環境の保護と途上国の経済開発とを両立しようとする取り組みです。しかし、産業の規模を拡大しづらいことや、現地のツアー環境の整備に時間がかかることなど、課題も多いことがわかりました。どうしたら「人と自然が共存していけるような開発」が可能か、各地の現地事情によってもそれは違うはずです。

今回の講義では、こうした問題について考えるきっかけを与えていただきました。カンボジアのSDGsに関わる諸問題にどう対処していくといいのか、自分がどう関わられるのか、今回学んだ「持続可能な開発」という視点からも考えていくってほしいと思います。



## 第5回 カンボジアの現地事情を学ぶ

今回は中央大学の学生団体C-Habitatの方々に来ていただき、大学生活全般の話からC-Habitatの活動内容、メンバーの思いに触れる機会をもちました。C-Habitatには中杉の卒業生も多く在籍し、活躍しています。C-Habitatは国際NGO団体Habitat for Humanityを支援する、中央大学多摩キャンパスのボランティアサークルで、海外での住居建築ボランティア活動、震災復興支援活動、

街頭募金、地域ボランティアなどの活動を行っています。ボランティア活動の中身だけでなく、活動に参加するきっかけや大学生活について知ることができます。良い機会となりました。本講座をきっかけに大学進学後、C-Habitatのような団体に所属し、活躍の場をさらに広げていく人材が増えることを期待しています。



### 第6回 世界の貧困層の真実

今回は、very50の代表の菅谷亮介様から世界の貧困層の真実について講演いただきました。

音楽、コンサルティング、そしてvery50でのソーシャルビジネスと多方面で活躍する菅谷さんが、講演を通して中杉生に訴えておられたのは、「常に自分の考え、当事者意識をもちなさい」ということでした。なぜ格差が生まれるのか？低所得者の住まいが特定の場所に集まる理由は？農村から夢をもって「自分が」都会へ上京するところから丁寧に思考を重ねることで、生徒たちを自然に現在の社会問題へと導いておられました。



## 第7回 カンボジアの歴史と文化

今回は中央大学文学部から高橋宏明教授にお越しいただき、カンボジアの歴史と文化についてお話をいただきました。内戦時代にカンボジア日本大使館に勤務した後、カンボジアの大学で教鞭をとられた経験のある先生のお話は非常に興味深いものでした。また、地球の歩き方「アンコールワットとカンボジア」でカンボジアの歴史の部分も執筆されており、近世から現代に至るカンボジアの歴史について学ぶ機会となりました。

生徒たちは、カンボジアの内戦時の話を聞いて、教育の大切さを改めて実感したり、内戦から20年で現在まで復興したこと驚いたりしたようでした。



## 第8回 カンボジア内戦とその後の経済発展

公開授業の今回は、APEXトラベル会長の三浦キリップトさんにお越しいただき、カンボジア内戦時代のご自身の体験を交えながら当時の話をしていただきました。1962年に生まれた三浦さん(1960年代はベトナム戦争、1970年代後半からは内戦)は、大変な時代



に幼少期を過ごされ、17歳のときに難民キャンプへ逃れ、20歳のときに日本へ移住されました。親族を紛争で亡くされた辛い過去や当時の戦争の様子も生徒に包み隠さず伝えて下さいました。(写真中央右が三浦さん)

三浦さんの講演の前には、APEXカンボジアでランドオペレーターをされている今永さんより「地理・歴史から見たカンボジア」と題し、観光と地理、アンコールワットが建造されたクメール王朝時代よりもさらに昔の扶南国の時代から現代までの歴史を概説していただきました。伸縮する湖と呼ばれるトンレスップ湖の雨季と乾季の大きさの違いに皆驚いていました。

### 3. 現地研修

夏休み中の8月3日から9日にかけて、カンボジアでの現地研修をおこなった。以下はその研修内容の報告である。

#### 1日目 8月3日（金）カンボジアへ

本日から1週間にわたるカンボジアでの現地研修が始まりました。成田から6時間のフライトでプノンペン空港に到着し、カンボジアで初めての食事をした後、国内線でアンコールワットのあるシェムリアップまで移動しました。この日は移動だけでしたが、ホテルでのミーティングの時間に、初めて見るカンボジアの景色や人々の様子に各自どのような感想を持ったかを話し合い、意見交換しました。



(プノンペン空港の近くで初めての食事)



(国内線でシェムリアップへ)

## 2日目 8月4日（土）SALASUSU工房見学・

### 農村家庭訪問 水上集落・アンコールワット見学

SALASUSUは農村部の女性を雇用し鞄やサンダルなどの商品を生産・販売しています。工房ではスタッフの橋本さんから事業内容や活動の歴史についてお話を伺い、女性たちが働く工房を見学しました。生徒たちは、貧困の解消や女性の社会的自立を促すSALASUSUのプログラムに感銘を受けていました。また、働く女性の家庭を訪問し、農村部の暮らしの現状についても目を向けました。その後、トンレサップ湖にある水上集落コンポンプルック村を見学しました。乾季には水がひき地面が現れますぐ、雨季であるこの時期は高床式建物の下部が水につかり、船で見学しました。午後はアンコールワットやアンコールトムを見学し、夕食時には伝統舞踊のアプサラショーを見て、カンボジアの歴史や文化について理解を深めました。



(SALASUSU工房の見学)



(農村の家庭訪問)



(水上集落コンポンプルック村)



(アンコールワット)

### 3日目 8月5日（日）プノンペンへ移動

#### トゥールスレン博物館・キリングフィールド見学

午前中に空路プノンペンへ移動し、午後はポル・ポト時代の負の遺産、トゥールスレン博物館とキリングフィールドを見学しました。事前学習でカンボジアの痛ましい歴史については触っていましたが、実際にその現場を訪れてみて、生徒それぞれに感じるものがあったのだと思います。日本語のイヤホンガイドを利用し、ここで実際に起きたことの説明を聞くにつれて、生徒の多くが次第に引き込まれていったようでした。夕食時には、事前学習でもお世話になった三浦様から、改めてお話を伺いました。今回はカンボジアの内戦の歴史だけでなく、内戦終結後のカンボジアの発展のために三浦様ご自身が携わってきた観光業についてもお話をいただきました。



(トゥールスレン博物館)



(イヤホンガイドで説明を聞く)



(プノンペン郊外のキリングフィールド)



(夕食時の三浦様のお話)

## 4日目 8月6日（月）JICA西村様講演会

### くっくま孤児院訪問 カンボットへ移動

この日の朝は、JICA青年海外協力隊でカンボジア政府観光省で活動している西村様にホテルの会議室にお越しいただき、カンボジアの観光の現状と課題をテーマとした講演をしていただきました。生徒たちは、海外でボランティアとして活動することの難しさや働き甲斐にも関心を持ったようでした。

その後、ホテルを出発し、プノンペン市内のセントラルマーケットで買い物をしました。食料品や衣料品などのお店には現地の人も買いに来ていて、マーケットの様子を体験することができました。

午後はくっくま孤児院を訪問し、子供たちと交流をしました。子供たちから踊りや歌の出し物を披露してもらった後、日本人で支援に携わっている楠さんからお話を聞いたり、子供たちとゲームやスポーツなどで交流し、楽しい時間を過ごすとともに、ボランティアや支援のあり方についても考える機会になりました。

夕方には南部のカンボット州に移動しました。バスで4時間ほどの長い道のりでした。



(JICA西村様の講演会)



(セントラルマーケットでお買い物)



(くっくま孤児院を訪問)



(ゲームやダンスで交流)



(南部カンボット州の街並み)



(シーフード中心の夕食)

## 5日目 8月7日(火) JICA大坂様講演会

### 胡椒農園見学 マングローブ植樹体験 JICA益子様講演会

南部カンボット州は海に面した州で、フランス植民地時代の建物が残り、欧米の観光客も訪れる街です。この日の朝は、JICA青年海外協力隊としてカンボット州の観光局で活動されている大坂様をお迎えし、講演とワークショップをしていただきました。テーマは「カンボット観光の様々な問題、あなたならどう解決する？」です。生徒たちはグループに分かれ、課題解決のアイデアを考え発表しました。

講演会の後は昼食会場でもある胡椒農園を見学しました。胡椒はカンボット州の特産品の一つで、栽培方法の説明を聞くとともに、胡椒を使った昼食でその味についても実感することができたと思います。

午後はマングローブの植樹体験をしました。植樹を進めている団体は、もともと地元の漁師たちからなるコミュニティ。開発とともにマングローブが減少し漁業資源が減少しているとのことで、豊かな海を取り戻すためにマングローブの植樹を進めているとのことでした。船で川と海が接するところの浅瀬に上陸し、ドロドロになりながら一人一人がマングローブの苗木を植える体験をしました。

夕食前のホテルでは、JICA青年海外協力隊の益子様に講演をしていただきました。カンボジアの学校には日本のような生徒会や体育祭・文化祭などの行事がほとんどなく、益子様はカンボジアの中學・高校で生徒会活動の導入や行事の普及といった協力活動をされています。次の日に訪れるラナル中学・高校も益子様が活動されている学校現場の一つです。



(JICA大坂様の講演会)



(カンボット観光の課題解決策を考える)



(胡椒農園を見学)



(マングローブ植樹体験)



(JICA益子様の講演会)



(協力隊のお二人と一緒に夕食)

## 6日目 8月8日（水）ラナル中学・高校との交流会

### プノンペンへ移動 帰国？

いよいよ事実上の最終日。朝食後にホテルを出発し、ラナル中学・高校を訪問しました。前日に講演をしていただいたJICA協力隊の益子様にも仲介役をしていただき、カンボジアと日本の生徒同士の交流会を実現することができました。初めに本校生徒から日本の学校生活や日本文化の紹介をし、続いてラナル中学・高校の生徒からカンボジアの学校生活・日常生活について発表をしてもらいました。その後、少人数のグループに分かれて話し合いをしたり、墨と筆を使ってお互いの名前を日本語やクメール語で書き合ったりして親交を深めました。また、運動場に出て、両校の生徒が混ざり合ってチームを作り、益子様が以前にカンボジアの生徒たちと一緒に考えて実行したという運動会の種目を行い、各チームで競い合いました。

ホテルに戻り昼食をとった後、現地研修全体を振り返る時間を設けました。生徒一人一人がカンボジアに来て様々な体験をして感じたことを、自分の言葉で語り、互いに共有することができました。

その後、バスでプノンペンに戻り、イオンモールでお土産を買い、カンボジアでのすべての研修を終えました。予定ではこの日の夜のフライトで帰国するはずでしたが、東京付近に接近していた台風の影響で欠航となり、プノンペンでもう一泊してからの帰国となりました。



(ラナル中学・高校を訪問)



(中杉生のプレゼンテーション)



(名前を書き合い文化交流)



(スポーツでも交流)

#### 7日目 8月9日（木）日本に帰国

台風の影響でフライトが半日遅れましたが、午前中にプノンペン空港に移動し、午後には成田に到着。カンボジアでの現地研修が無事終わりました。

#### 4. 事後学習

事後学習におけるグループワークでは、カンボジア現地研修で各自が感じた問題意識をもとに、グループごとに解決すべき「課題」を設定し、その課題解決のための活動プランを検討するPBL型の学習をおこなった。日本環境教育フォーラム（J E E F）やSALASUSUの方々にもアドバイスをいただきながら、具体的な活動プランを考え、最終回の報告会で各グループが発表した。以下はその実践報告である。

## 第1回 スタディツアーノの振り返りと課題設定

カンボジアでの現地研修を各自が振り返り、自分たちがこれから関わりをもつて解決に取り組みたい「課題」を考えるグループワークを行いました。最近ニュースで話題になっている地球温暖化、次世代エネルギー、貧富の差の拡大といったものがSDGsと密接に関わりをもつことを再確認し、SDGsの取り組みの影響を最も強く受けるのが、他でもない自分達自身であるという当事者意識に立つことから事後学習を開始しました。そして、現地研修で印象に残った写真を2枚に絞り、なぜその写真が印象に残っているのかをグループ内で話し合いました。児童労働やごみ、衛生、交通マナーといったものが多くの班で取り上げられていました。



## 第2回 プレゼンの仕方を学ぶ

事後学習の総括として、本講座では最終報告会を実施しています。そこで情報科の生田先生から、プレゼンテーションをする上で最低限意識してほしい「人前で話をする際のコツ」について、グループワークを交えて授業を行っていただきました。よい例・悪い例を生徒たちが実践しながら、ポイントを意識することができました。



### 第3回 問題の探索と目標の設定

各班で、何に取り組むか、それによってどのようなことが期待できるかを考えました。「高校生でも実現可能なもの」という制約しかないので、これさえ満たしていれば何をやっても良いのですが、実現可能性について少し踏み込んで考えると行き詰まってしまうことの繰り返しで、答えが決まっていないことの難しさを感じていました。現地研修に同行したJEEFインターン生の方から考えるヒントとしてアイデアを一つ発表してもらいました。



### 第4回 課題解決に向けての情報収集

前回までのグループで、各班からは以下のアイデアが出ました。

- ・学習用文房具の寄付
- ・カンボジア料理を日本で紹介
- ・プノンペン空港でお土産の販売
- ・ハーブで市場の虫を減らす

- ・ゴミ拾いチャリティイベント

これらの課題解決案について、実際にやらなければならないことを深く掘り下げて考えました。グループワークに先立ち、SALASUSUでマーケティング担当をされている横山様から、SALASUSUの前身である「かものはしプロジェクト」時代からの取り組みや開発秘話などのお話をいただき、このような取り組みの難しさと共にやりがいについて改めて考える機会をいただきました。その後、現地カンボジアのSALASUSUでお世話になった橋本様にもオンラインを通じて参加していただき、各班とビデオ会議で質問をやり取りしました。



## 第5回 課題解決策の具体化

アイデアの変更を重ねながら前回までに各班が取り組む課題解決案の大枠が決まりました。今回はその案を実行にうつすことをイメージして、活動の実行手順、必要な経費などを整理し、そこから出てくる今後の課題をクリアできるのか、どの順番に取り組むのが最適なのかを、PDCAサイクルを回しながら各班で検討しました。また、自分たちで考えた課題解決案が、SDGsの17の目標のうち、どの目標の達成をねらいとしているのかについても確認しました。

実際のグループワークではワークシートを用いることによって、これまでの準備で具体的に何ができるいて何が足りていないのかを頭の中で整理することができたと思います。



## 第6回 プrezent資料の作成

二週間後の公開授業で最終報告会に向けたりハーサルを行います。今回はリハーサルに向けて、スライドとレジュメ作りに取り組みました。基本的には前回作成したワークシートを元にスライドを作成していくばよいので、どの班も仕事をうまく分担して作業に取り組んでいました。



パワーポイントやワードといったオフィスソフトの扱い、PC上でのファイルを開く、保存するといった操作に四苦八苦しながらも徐々に形になっていきました。情報の授業や卒業論文でPCの扱いに慣れている上級生がしっかりと各班の作業をリードしてくれていました。

## 第7回 最終報告会の準備（リハーサル）

この日は本校の公開授業の日にあたり、生徒の保護者の方も何人か見学してくださいました。事後学習を通じてこれまでに検討してきた課題解決案を、班ごとに順番にプレゼンテーション形式で発表しました。スライドの文字や写真が見にくかったり、レジュメが完成していないかったり、あるいは発表のわかりやすさなどを互いに指摘し合い、来週の最終報告会に向けての改善点を確認し

ました。本番の発表まであと一週間ですが、これまで一年間学んできたことの成果を出せるよう、各班とも意欲を高めることができたと思います。



## 第8回 最終報告会

いよいよ最終報告会です。事前学習・現地研修・事後学習と、これまで学内・学外の様々な方にお世話になって進めてきたプログラムでしたが、この最終報告会には保護者やこれまで関わってくださった関係者の皆様など多くの方に参加していただき、改めて皆様からご協力と期待に支えられて進めて来られたのだと実感しました。

ゲストコメンテーターとして、事後学習の中心となって生徒を導いてくださった日本環境教育フォーラムの田儀様、小野田様、また、本校卒業生で2014年度のタイ研修時代からお世話になっているJICA地球ひろばの竹谷様、今回の現地研修・事後研修でお世話になったSALASUSUの横山様にお越しいただきました。

どの班も前回のリハーサルで出た改善点をしっかりと修正てきており、これまでに検討してきたこと、まだ課題として残っていること、この研修を通して学んだことをしっかりと伝えられたと思います。ゲストの方々からも励ましの言葉と共に、様々な視点から課題点も提示していただき、実現に向けて継続してもらいたいと期待されるプランも生まれました。参加された方からの感想でも、是非続けてほしいとの声を多くいただき、机上の空論ではなく、高校生

から始めることができるSDGsの一つの形を発見できたことをうれしく思います。

ゲストの方からは、「自分たちがやりたいこと、変えるべきだと思っていることが、押し付けになってはならない。現地の人々が本当に望んでいることは何なのか。ヒアリングの機会をもっと多く設けることが大切だ。」というコメントをいただきました。自分たちの目に映る光景の裏にはどのような背景があるのか。これは事前研修・現地研修の中でも何度か耳にしたお話をだつたと思います。

形式上は今回の最終報告会をもって本プログラムは終わりとなりますが、「答えのない問題」に対して自分たちが考えたこの「課題解決案」をぜひ実行に移して、現実の世界における課題解決、SDGsの目標達成に近づけていってほしいと思います。



## 5. 本研修を通じての生徒の感想

- ・最初は海外プログラムに参加してみたいといった些細な動機からこの講座を選択しました。何も知識や考えもない状態から約8か月間に渡って行われた活動により、大きな満足感を得ました。報告会に来て下さったSUSUのコーディネーターさんは、私たちの班の発表を聞いて即座に案を提示してくださいました。私も何もないところから新しい発想を考え出す力を養いたいと思いました。海外に行くと、様々なことに対する視点が変わると聞いたことがありましたが、それは本当でした。日本での生活が当たり前と思っていた自分にとって常識を覆される出来事が多く経験できてよかったです。
- ・私は今まで親に勧められた海外研修の類に参加したことがなかったが、今回のカンボジアは語学研修ではなかったこともあり、自分から参加することを決意した。研修を通して日本とは全く違う発展途上国の様子を自分の目で確かめ、それらについて考えたという経験ができたことが私にとって大きな成長だと思う。しかし、それだけではなく、色々な人とコミュニケーションをとる上で言語は必要不可欠であるとか、国内に限らず海外で仕事をするのも将来の選択肢の1つであるといった将来のプランが見えてきたことも、私の中の変化の一つだと思う。
- ・私はこの講座を通して、私が日頃当たり前だと思っていることがカンボジアではそうでないこともあると感じました。特に水やゴミ処理の問題などの生活に関するることは大切なことだと感じました。そのような問題があるのは事前学習から知っていて、どう自分たちで解決すればいいか、力になれるのかを考えていましたが、授業を受けていく中で私がカンボジアを通して学ばせていただくことの方が多かったように感じました。
- ・カンボジアだけでなく、海外の色々な文化や問題について興味をもつように

なった。具体的には、海外問題について取り上げる番組を見たり、SNSで繋がっているカンボジアの人やアメリカの友人と会話するようになった。また、小野田さんや旅行会社の人たちが英語で会話している姿を見て、英語を学ぶことの大切さがよく分かった。子供の力では何もできないと思っていて、ましてや海外に関することならなおさらそうだと思っていたが、自分で企画したり考えをまとめる経験を通して自分にでもできるという自信がついた。

- ・この講座を通してSDGsについて知ることができました。SDGsの大切さや、世界の抱えている問題の現状について知ることができました。それと同時に今自分にできることを積極的に行うことの大切さも知ることができました。世界の現状は自分が思っているよりもひどく深刻だということを知りました。自分が今どれだけ幸せな生活を送っているのかということを実感することができました。ご飯を残さず食べる、必要ではないものは購入しない等、今自分にできることはできるようにしていきたいです。これを自分だけでなく、友達や家族などの周りの人に広めていきたいと思います。
- ・研修が始まった当初、私は海外に行ったこともなくカンボジアの場所すら曖昧だった。海外に全く興味がなかったが、ポルポト政権についての歴史を聞き、カンボジアに実際に行つたことを通して、日本を基準に考えていることに気づいた。自分の周りで行われていることが全て当たり前だと思っていたが、カンボジアではそれを覆すようなことがたくさんあって驚いた。確かに日本は設備が整っていてよい制度が多い。しかし、他の国にこれを押し付けてはいけないと思う。「先進国」「途上国」と呼ぶけれど、どちらの立場が上ということはないと思う。どのような関係においても話し合いをすることは大切なことだと改めて思った。
- ・事前学習と現地研修後を行つた事後学習の間での自分の変化はとても大きかつ

たです。カンボジアに実際に行つたことでカンボジアの人たちが貧しくても、それと心の豊かさとは違うということを実感しました。自分の今いる環境がどれだけ恵まれているのかを身をもって感じ、カンボジアの貧しい環境の中でも自分で努力して勉強する子供たちの姿は同じ学生で嫌々勉強している自分に響くものがありました。それらの刺激を受けて自分はすべてのことにおいてそれが世界の当たり前ではないということを意識するようになりました。

- ・この研修に参加した理由はSDGsについて学ぶためだった。そのため、普段の生活の中でもSDGsについて考えるようになった。また、発展途上国に行つたことで日本という国の素晴らしさを学んだ。今の生活を守るためにもSDGsを意識して行動したい。
- ・今まで与えられた課題を解決することしかやってこなかったのですが、PBLを通して自分たちの頭で課題を見つけて、その答えのない問題に対してあらゆる方向から解決策を考え、話し合い、最終的に1つの答えを自分たちで導き出す力が身についたと思います。この学習で学んだことは今後の学校生活はもちろん、社会に出て役に立つ能力だと思うので、この学習ができてよかったです。
- ・この講座を取った最初の理由は、海外の情勢を知っておいたほうが将来、自分が何かやるときに絶対に役に立つだろうという程度でした。しかし、実際はそのようなことよりもどうやつたらカンボジアが良くなるかを必死に考えることで、いかに日本が裕福なのかを実感した。起業家やJICAで働いている方の意志や精神は一生忘れられないと思います。このような方々をとても尊敬しています。日本では当たり前でも他国では当たり前でないことを知りました。また、もしその当たり前のものがなかったらどんなに不便かを考えるようになりました。また何気ないところにもたくさん努力が詰まっています。

ると思うようになりました。

- ・今まででは自分の考えや意見を言うことがあまりなかったのですが、今考えてみるとこのカンボジアの講座では自分の考えを言っていたなと思いました。また、グループ内で誰かが意見を言っていて、その意見がよく分からぬ場合には聞き流していました。ですが、いまでは「どういうこと？」と聞けるようになった自分がいます。そして、それでも分からぬときには自分なりに調べてみたりするようになりました。また、プレゼンテーションの方法についても学べたと感じています。
- ・この講座に参加する以前は、アジアをはじめとした発展途上国に対して、貧乏や汚いといったマイナスイメージをもっていた。しかし、実際に現地に行ってみて、ある問題に対して今までとは異なる視点で考えることができるようになった。また、問題解決のために出した案でも、それに対して新たな問題が生まれてしまうため、ある策に対するメリットとデメリットを考えて案をまとめることができた。そして、一つの問題はそれだけ解決すれば良いではなくて、あらゆる問題が複合している場合の方が多い、そこに注意して理解を深めることができたのは良かったと思う。
- ・私は今回の講座を通して、社会に対する見方が変わったと思う。講座を受ける前までは世界で何が起きているのかを漠然としか分からなかった。しかし最近は世界で起きている問題に対して解決しようとしている人たちに目を向けるようになった。それまでは「すごいな」としか思っていなかったことを「どうやってやっているんだろう」と疑問をもち始めたので、これはすごく良い意識の変化だと思った。そして実際にカンボジアに行くことで「助けたい」という思いが強くなった。

## 6. 参加生徒の感想から見えてくるもの

本研修に参加した生徒の多くが指摘していたのが、「海外に実際にに行くことで自分の今までの生活の仕方や考え方方が当たり前のものではなかったということに気づいた」ということである。一週間という短い期間であっても、単なる観光ではなく、社会課題の現場を訪れ、そこで実際に支援活動等に関わっている方からお話を聞き、また、現地の人々との交流や意見交換を通じて、今まで常識だと思っていた自分の価値観に大きな変化が生じたのだろう。また、何人かの生徒は、現地の人とよりコミュニケーションをとるには英語をはじめとする外国語の必要性を実感したようである。

世界に目を向けるという点でも、今回はカンボジアにおけるSDGsの課題をテーマとして扱ったが、カンボジア以外の広く世界的な問題にも目を向けるようになったという生徒や、日本にも様々な課題があるということを実感したという生徒がみられた。一つのテーマを軸として、周囲に問題意識が広がったということが見て取れる。そして、一つの問題を解決しようとしても他の問題が生じてしまうということから、世界の諸問題が互いに複雑に絡み合っていることに気づいた生徒もいた。

さらに、課題解決学習の実践から多くのことを学んだようである。他者と意見を出し合い議論しまとめることの大切さと難しさ、人にわかりやすい資料を作成する力、大勢の前で自分たちのプランを発表するときのプレゼン力などのスキルの大切さを意識した感想もあった。

そして何より、課題解決のための活動プランを自ら策定した経験から、実際の社会に働きかけていきたいという意欲を示す意見が多くみられた。自らのプランを実行したいという生徒はもちろん多く、それだけでなく、今回の経験をいかして日本や身近な社会の課題にも取り組んでいきたいという者、あるいは家族や友人をはじめ周囲の人々を巻き込んで行動していく必要があると考えるようになった者もいた。このような意識が生徒各自の今後の生き方や進路選択につながっていくことを期待したい。

以上のことから、本研修で実践した「SDGsを切り口として現実の社会問題を対象に課題解決策を考える」ということの学習効果は大きいように思われる。「知る」「考える」にとどまらず、「行動する」ことまで見据えた学習プログラムが高校教育の現場でも今後ますます重視されるようになるだろう。

# GO GLOBAL ! 世界に飛躍する知性

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### PBL 版 グローバルスタディーズ

テーマ  
カンボジアで学ぶ SDGs(持続可能な開発目標)

プログラムの構成

4/28 事前学習①	5/12 事前学習②	5/19 事前学習③	5/26 事前学習④
<b>オリエンテーション</b>  年間を通してしたプログラムの内容を紹介し、参加生徒間の交流を図ります。	<b>SDGs を理解する</b>  本プログラムのテーマであるSDGsとは何か、その17の目標と世界の現状について学びます。	<b>国際協力について考える</b>  (JICA 地球ひろば 訪問)  JICAの活動について学び、国際協力について理解を深めます。	<b>持続可能な開発を学ぶ</b>  (JEFF 田嶋耕司 様)  JEFFの活動を通して、環境と人が共生する社会の実現について学びます。
<b>6/2 事前学習⑤</b>	<b>6/9 事前学習⑥</b>	<b>6/16 事前学習⑦</b>	<b>6/23 事前学習⑧</b>
<b>カンボジアの現地事情を学ぶ</b>  (C-Habitat 様)  中央大学の学生団体の協力活動とカンボジアの現地事情を学びます。	<b>世界の貧困層の実態</b>  (very50 喜谷亮介 様)  世界の貧困層の人たちの生活と、ソーシャルビジネスについて学びます。	<b>カンボジアの歴史と文化</b>  (中央大学文部教授 高橋宏明先生)  カンボジアの歴史や文化を学び、現地の人々への理解を深めます。	<b>カンボジア内戦とその後の経済発展</b>  (APEX ラベル会長 三浦クリプト 様)  内戦時代の体験談と、内戦終結後のカンボジアの発展についてお話を伺います。
<b>8/3～8/9 カンボジア 現地研修</b>		<b>◆カンボジアの観光業と社会問題を学ぶ</b>  <b>◆ソーシャルビジネスを学ぶ</b>	
<b>◆JICA青年海外協力隊の活動を知る</b>  <b>◆エコツアーアクティビティ(マンゴーパラグなど)</b>		<b>◆現地中高校での交流</b>  <b>◆孤児院訪問</b>	
<b>9/8 事後学習①</b>	<b>9/22 事後学習②</b>	<b>9/29 事後学習③</b>	<b>10/13 事後学習④</b>
<b>スタディアーマーの振り返り!</b> <b>課題設定</b>	<b>プレゼンの仕方を学ぶ</b>  (情報科 生田研一郎先生)  課題解決の提案に向けて、プレゼンテーションスキルを身につけます。	<b>問題の探索と目標の設定</b>  自ら取り上げたグローバルシェアの原因を探り、解決に向けての目標・ターゲットを定めます。	<b>課題解決に向けての情報収集</b>  引き続きグループで意見を出し合い、グローバルシェアの解決策を検討していきます。
<b>10/20 事後学習⑤</b>	<b>10/27 事後学習⑥</b>	<b>11/10 事後学習⑦</b>	<b>11/17 事後学習⑧</b>
<b>課題解決策の具体化</b>		<b>報告会の準備</b>	
グローバルシェアの解決策に向けて、自分たちが何をどのように働きかけていくのか、具体化していきます。		最終報告会に向けてのリハーサルをおこないます。解決策を発表し合うことで、生徒間で改善点を共有します。	

## PBL 版グローバルスタディーズ～カンボジアで学ぶ SDGs～



3. すべての人に健康と福祉を  
 11. 住み続けられるまちづくりを  
 12. つくる責任 つかう責任



私たちの活動プラン



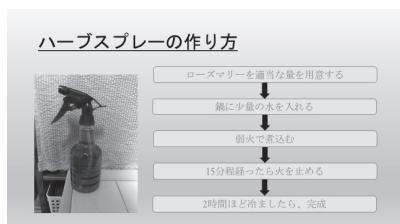
## 害虫駆除 with herb

### 【課題解決策の概要】

- ① 市場の衛生状態が悪く、ハエの多さが気になった。
- ② 私たちがハーブを使い、害虫を減らす。
- ③ 衛生的にすることで病気を減らす。観光客への印象を良くして収入 UP

### 【活動の順序】

- ① 協力してくれる人を探す。
- ② 協力してくれる店を探す。
- ③ 害虫を駆除することでどんな利益があるかを教える。
- ④ 資金を調達する。
- ⑤ ハーブを調達する。
- ⑥ 実際にハーブを活用する。



### 【活用にかかる費用】

・渡航費	13万
・ハーブ+道具（霧吹き）	1万
・ガイド代	3万

### 【今後の課題】

- ・現地の人とコミュニケーションを取り、協力者や協力店を具体的に決める。
- ・害虫駆除の重要性を理解してもらえるための案を考える。
- ・この企画後も継続してやってもらえるか。
- ・市場だけでなく、一般家庭や飲食店、街中の衛生状態の改善。



## PBL 版グローバルスタディーズ～カンボジアで学ぶ SDGs～



11. 住み続けられるまちづくりを  
14. 海の豊かさを守ろう  
15. 陸の豊かさも守ろう



私たちの活動プラン



## カンボジア クリーンプロジェクト

### 【課題解決策の概要】

- ①目的 イベントを開催することで、ごみをごみ箱に捨てる習慣をつけてもらう。
- ②ターゲット 現地の住民、周辺の学校、カンボジアに訪れた観光客
- ③活動内容の概要 現地の道路をみんなで歩きながらごみ拾いをするイベント。

チェックポイントで参加者にカンボジアの伝統的な料理やお菓子を振る舞い知ってもらう。

### 【活動の順序】

- ① アンコールワット周辺の自治体や役所に説明して、協力をお願いする。
- ② 同じような活動をしている団体を探し、協力を呼びかける。
- ③ 中学校の生徒にも活動を説明して、ボランティアとして参加してもらう。
- ④ シエムリアップの事務局で屋台の準備や交通整備の協力をしてもらう。
- ⑤ ポスターを作り、現地の学生ボランティアにホテルやお店に貼ってもらう。
- ⑥ イベント開催 拾ったごみを清掃局に渡す。

### 【活用にかかる費用】

ポスター400枚 4000円 手袋200ペア 4000円  
ごみ袋200枚 7000円 炊き出し（クイティウ200人分）23000円  
ボランティア（5人）5000円 渡航費（2人分）100000円

計 143000円



### 【今後の課題】

- ・ごみ捨ての習慣をつけてもらった後、どう政府を動かし、ごみ処理場をつくってもらうか？
- ・そもそもカンボジアの人がこのまま意識を持ち続けてくれるのだろうか？（継続した活動が必要）

## PBL 版グローバルスタディーズ～カンボジアで学ぶ SDGs～



17. パートナーシップで目標を達成しよう



# クメール料理から広めるカンボジア

### 【課題解決策の概要】

- ① カンボジアにはたくさんの良いところがあるにも関わらず、あまり人に知られていない。カンボジアへの観光客を増やすため、私たちはカンボジア料理を日本に広めるということを目指した。
- ② 学食などを通して中杉生にカンボジア料理を知ってもらう。その後、緑苑祭などを通じて杉並区などの地域の人にカンボジア料理を知ってもらう。
- ③ カンボジア料理を通じてカンボジアに興味を持ってもらう。また、SDGsについても知ってもらう。

### 【活動の順序】

#### ・学食

- ① 協力してくれるカンボジア料理店を都内で探し連絡する。
- ② 新聞作成・ブログ掲載の許可を学校にとり、作成する。
- ③ メニューを学食の方と考えて、材料を調達する。
- ④ 学食でカンボジア料理を提供し、アンケートをとる。

#### ・文化祭

- ⑤ 文化祭での企画を詳しく考え、実行委員に出店の許可をもらう。
- ⑥ 協力してくれるカンボジア料理店を探し依頼する。
- ⑦ SALASUSUの方に商品販売の協力をお願いする。
- ⑧ 文化祭で出店する。



### 【活用にかかる費用】

- ①ポスターやチラシを作るための印刷費用    ②料理の食費    ③作る人の人件費

### 【今後の課題】

職を通じてカンボジアを知ってもらうことが、校内だけでなく、広い世界で知ってもらう必要がある。

## PBL 版グローバルスタディーズ～カンボジアで学ぶ SDGs～



1. 貧困をなくそう  
4. 質の高い教育をみんなに  
10. 人や国の不平等をなくそう  
12. つくる責任 つかう責任



私たちの活動プラン



## カンボジアの子どもたちに文房具を届けよう

### 【課題解決策の概要】

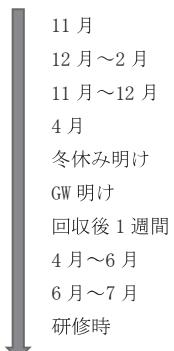
目的：教育を受けられていない子供をなくす。日本で無駄になっているものを有効活用する。

ターゲット：貧困地区の学校

活動内容：中杉で文房具を集めて、来年の研修生に届けてもらう。

### 【活動の順序】

- ① 中杉で文房具を集めることを許可をとる
- ② 先生と相談して届ける学校を決める
- ③ ホームページ、ポスター等で文房具を集めることを呼びかける
- ④ 長期休み明けに文房具の回収を行う
- ⑤ 集計をし、分別をする
- ⑥ 来年の研修生にこの活動の意味を伝える
- ⑦ 次年度の研修生に引き継ぎ
- ⑧ 学校に届ける



### 【活用にかかる費用】

0円Σ(-ω・!)

### 【今後の課題】

- ・実際にどれくらいの量、どんな種類の文房具が集まるのか
- ・届けた後に本当に現地で有効活用されるのか



## PBL 版グローバルスタディーズ～カンボジアで学ぶ SDGs～



1. 貧困をなくそう
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
8. 働きがいも 経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
12. つくる責任 つかう責任
17. パートナーシップで目標を達成しよう

私たちの活動プラン



## 物の買い方を見直してもらおう

### 【課題解決策の概要】

SALA SUSU の商品を中央大学杉並高校の文化祭で販売。

それにより、SALA SUSU の存在をもっと多くの人に知ってもらうと同時に、購入者と生産者をつなぐ販売システムを行っている活動内容を知ってもらい、物の買い方について見直してもらうことを目標とする。

### 【活動の順序】

- ① 中杉の校長先生に、文化祭で「SALA SUSU」の商品を売っていいかの許可を取る
- ② 「SALA SUSU」の横山さんに「SALA SUSU」や「I ❤️ Cambodia」の商品を売っていいか許可を取る
- ③ 売る商品を決め、その商品をどのくらいの量売るかを決める
- ④ 商品を買ってくれた人に渡すパンフレットを作成する
- ⑤ たくさん的人に来てもらえるように宣伝する 宣伝方法：SNS、文化祭のパンフレットに載せてもらう



### 【活用にかかる費用】

- ① 商品購入者に配るパンフレットを作る 200 部 14130 円
  - ② 商品は SALASUSU からの委託販売とする 0 円
- 合計金額 14130 円

### 【今後の課題】

パンフレット作製費など足りない予算をどのように捻出するかが今後の課題

